

「ひきこもり」支援の取り組みを！ コミュニティ・スクール推進状況は！



—袋井市議会6月定例会での高橋美博議員の一般質問—

「ひきこもり」が長期化・高年齢化

「ひきこもり」—仕事や学校に行かず、6カ月以上にわたり家族以外とほとんど交流せず、自宅にいる人。内閣府は2016年9月、推計で全国に54万1千人いるとの調査結果を公表した。「長期化・高年齢化」が進んでおり、真剣な対策が求められる。

問 袋井市にも相当数の「ひきこもり」の人が潜在していると考えられる。市は実態の把握をしているか。

答 個人のプライバシーに関わることで把握は困難であり、実態把握は行っていない。推計では15～39歳人口の1.57%、市内には約400人いることになる。



問 袋井市の相談窓口はどこか。また相談件数はどうか。

答 本市では、引きこもりに特化した相談窓口は設けていない。は一とふるプラザ袋井の総合相談窓口や、保健センター、しあわせ推進課、子ども支援室、社会福祉協議会、各学校のスクールカウンセラーなど様々な部署・機関で相談を受け、対応をしている。

問 原因は多様であり、専門性が異なる諸機関が参加する地域連携ネットワークの設置・運営が必要では。

答 必要に応じて「静岡県ひきこもり支援センター」や青少年交流スペース「アンダンテ」、「地域若者サポートステーションはままつ」や医療機関など外部の専門機関につないでいる。今後も「心の健康づくりネットワーク会議」などにより連携共有を図っていく。

問 教育部局の不登校対策、子ども支援室「ぬっく」の取り組みは生かされているか。

答 教委の不登校解消の取り組みや相談活動などを活用した事例はないが、今後は共有化を図っていく。

問 市内にある就労支援施設の活用状況はどうか。

答 4か所、80の方が利用して社会参加の訓練に取り組んでいる。デンマーク牧場のひきこもり支援・交流スペースでは開設から半年で7人の利用があった。

学校と住民の協働で「地域とともにある学校」

コミュニティ・スクールとは—「学校運営協議会」を設置している学校のこと。学校と地域が連携・協働し、当事者意識をもって子どもたちの成長を支えることをねらいとしている。

問 袋井市は昨年度から市内小中全校に導入した。それによりどのような変化が生まれているのか。

答 各学校で学校運営協議会が年間3回から4回実施され学校運営の基本方針の承認が行われるなど「地域とともにある学校づくり」が進んでいる。地域のみなさんの中に自分たちの学校をよりよいものにしていくという当事者意識が高まってきている。

問 学校の求めに応じて必要な支援を地域ボランティアが行う体制を構築する学校支援地域本部事業はその核となる。市は全校に広げる方針だが、その導入、コーディネーターの選任はすすんでいるのか。

答 現在までに袋井北小、今井小、三川小、浅羽南小、浅羽東小の5校で事業を実施。コーディネーターには教員OBや公民館長など様々な方が選任されている。今後さらに重要度が増すものと考えている。

問 学校支援ボランティアは押し付けではなく自主性

を尊重すべきと考える。参加状況はどうか。

答 市内全ての小中学校において様々な形で地域住民が活動している。学校からお願いしたものもあるが、地域から提案いただいたものもある。お互いに無理のないよう話し合いながら協力いただいている。

問 市内の学校ではボランティア支援による学習教室が実施されている。教育委員会はどうか捉えているか。

答 中学生を対象とした無料の学習塾は4中学校区全てで開催、小学生を対象とした学習支援も半数以上の小学校区に広がっている。学習に不安を抱える児童生徒に対し、地域で支援をしていただけることは大変ありがたいことだと考えている。

問 公民館、PTAとの連携をどのように図っているのか。

答 地域の人材を広く知る公民館長は心強い存在であり、ほとんどの小中学校で協議会委員となっていていて、PTA会長も同様であり、学校、家庭、地域の三者が協力して推進していただきたい。



デマンドタクシー導入は利用が少なく失敗では

デマンドタクシー—自宅と目的地間の移動に利用できる公共交通機関。事前に利用者登録をし、利用の際も予約が必要、行先範囲も決められている。市は、利用状況・経費削減を考慮し、昨年10月から浅羽南地区・宇刈地区で自主運行バスを廃止、デマンドタクシーを導入、試行運転を行っている。市は、結果を検証し今年10月から本運行に移行させ更に地区を拡大する予定。

問 試行運転の利用実績とその評価はどうか。

答 利用登録者数は浅羽南地区340人、宇刈地区176人で合計516人。2地区合わせての利用者数は当初1日あたり5.2人と想定していたが2.1人と想定40%と少ない状況となっている。将来の移動手段として期待されるとの意見も多数あり、今後徐々に利用は増えていくものと考えている。

問 アンケートには利用者の不満の声が多いのでは。

答 運賃が高い(1回500円)、予約が面倒、便数が少ないなどの改善を求める意見のほか、自家用車を運転できなくなった将来利用したいとの意見も頂いている。

問 見直しで利用の改善は図れるのか。

答 運賃を500円から400円に、更に相乗りの場合には300円に引き下げる。予約も2時間前から1時間前に改善、便数も増やし、行先も拡大する。こうした改善を行い10月からの本運航をスタートさせたい。

問 自主運行バス利用者の1割しか利用していない。導入は完全に失敗と考える。今後徐々に他地区にも拡大するとの方針だが、それでいいのか疑問である。

答 自主運行バス、デマンドタクシーの運行業務委託期間が平成30年度末となっており、地域協働運行バスなどを含めて平成30年度に検討していく。

日本共産党袋井市議会ニュース 発行2017.6.23

高橋美博 大谷245 ☎ 48-6100

浅田二郎 浅羽2528-1 ☎ 23-2272